

太平の眠りから目覚める就職委員会

佐藤有耕

人間総合科学研究科助教授

1. 青天の霹靂～進路説明会開催の要望～

人間学類の就職委員会は目立たない委員会でした。学生問題、カリキュラム、入試などに関わる委員会とは違い、委員長が一人いれば何とかなつたそうです。

ところがある日、学生にやさしい宮寺晃夫学類長から連絡がありました。人間学類生の卒業後の進路についての説明会を検討してほしい、とのこと。それを希望したのが1年生だと聞いて、私たちはさらに驚いたのです。

そういえば、この頃は高校生対象の大学説明会でも、取れる資格は何かという質問が必ず出ます。最近の学生は、私たち教員に比べて、現実的に進路を考えているしっかり者なのかもしれません。休眠状態であった就職委員会は、1年生の一言で眠りから覚めることになりました。

2. 学類主催の進路説明会が必要だ

まず、学類が主催する進路説明会が本当に必要なかを考えました。この大学にはすでに就職課があるからです。そして、私たちもこのときに知ったのですが、筑波大学の就職課は、非常に充実した活動をしているのです。企業・団体、公務員、教員などに特化したガイダンスや講座に模試、さらには低学年向けガイダンスもあります。OB・OG 懇談会から、直前特訓学内講座まで、なんと年間30本以上のイベントがあるのです。教員の関心が低いのかもかもしれませんし、学生もよくわかっていないのかもかもしれませんが、実はスゴイのです。

むしろ就職課の活動を周知徹底させることの方が正しい道ではないか、そういう意見が当然出ました。そしてつくばスチューデントズ掲載の「就職ガイダンス等のお知らせ」を教員会議で配布し、注意を喚起することに努めました。そのうえで、進路説明

会の開催が決まりました。井田仁康委員長の英断でした。近年大学院進学希望者が増加しており、そのガイダンスも必要ではないかと考えたからです。また、教職員や専門家からの情報提供だけではなく、同じ学類の先輩から体験談を聞かせてもらうことの教育的意義は大きいと考えたからです。

こうして人間学類進路説明会は、“すでに進路を確定した身近な先輩の話聞くことで、自分の進路選択に対する意識を高めよう！”を趣旨として準備が進められることになりました。

3. 当日は大入り満員時間超過

平成16年2月18日17時から、第1回の人間学類進路説明会が開催されました。まず、本年度と昨年度の人間学類卒業者の進路を正直に知らせ、続いて本部就職課久保田係長にお願いして、就職課利用ガイダンスと就職のストラテジーについてお話いただきました。その後は先輩学生・卒業生6名の登場です。

①日本経済新聞社内定の先輩：3年夏に企業インターンシップに参加したことが、働くことについて本気で考える転機となった。強い人はめっばう強いが、弱い人は本当に苦手なのが就職活動。節目節目で自分の人生のキャリアを描くことが大切。

②教員採用内定の先輩：難しい道と思われ

がちな教員採用試験について、熱く語っていただきました。さすがは教員志望と思わせる熱血ぶりで、参加学生も大いに納得でした。

③厚生労働省入省予定の先輩：公務員試験合格のポイントは、一次試験に合格するための準備、官庁訪問、卒論との両立。官庁訪問というシステムの説明が、教員にもためになりました。

④博士課程進学の先輩：自分がどのように考えてこの道を選び、大学院でどのような活動をしているかについて説明してくれました。入試対策は、自分が何を研究したいかの明確化、これに尽きる。

⑤臨床心理士養成系他大学院修了の先輩：しんどいけれども、他大学に行くことで別の世界が見られるメリットは大きい。入試は、卒論執筆とうまく両立するために、年単位、月単位、週単位、1日単位で勉強計画を立てる。

⑥つくばで就職した先輩：就職してもう3年目の先輩は、人間学類生をリクルートに来てくれたのでした。必要な技術は会社で身につければ良いので、安心して飛び込んできてほしいとのことでした。

予定の時間を超過してしまい、質疑応答の時間は取れませんでした。質問やメルアドを開きに行く学生たちの姿を見て、私たちもこの会を開いて良かったと感じました。出席した学生は1年生から4年生までの

約 120 名。圧倒的に 1、2 年生の参加が多く、今どきの学生たちの熱心で堅実な一面を知りました。

4. どのような進路説明会がベストなのか

終了後のアンケートへの回答を読むと、幅広く聞けたのは良かったが、もっとテーマを絞って複数回に分けて実施し、一人一人の話をもっと詳しく聞きたいという感想が多くありました。回数を増やすか、会場を分けて実施してほしいということでしょうか。いずれにせよ、もっと開催してほしいということでした。

今回は、教育学と心理学と心身障害学の 3 主専攻、企業と教員と公務員、国家Ⅰ種とⅡ種と地方公務員、都市部の大企業と地方の小規模な企業、博士課程と修士課程、筑波大学の大学院と他大学の大学院など、多様な関心にこたえられるような構成を組みました。人間学類の学生の多様な進路に対応しなかったからです。しかし、フリーの仕事に就いている人の話が聞きたい、就職しなかった人の話を聞いてみたい、という意見もありました。

発表者からの感想にも、就職と進学以外の積極的な選択もあることを学生に伝えてほしいという意見がありました。定職に就く前に自由な立場で見聞を広めようとする人、社会的活動に従事するために拘束の多

い定職に就くことを避けた人、そのような枠にとらわれない選択もあり得るのではないかという問題提起です。それを無就業者とみなして、価値が低いように学生に思われるのは残念だ、ということでした。考えた末にそのような選択をすることも「人間を深くかつ多角的に理解できる人材、その発達・形成の助けとなれる人材の育成」を目指す学類ならば、視野に入れてほしいというのも、もっともな意見でした。

5. 眠りから覚めた後の就職委員会の活動

私たちは、今後は就職だけでなく広く進路について学生を支える委員会になる必要がありそうです。いわゆる進学校では、進学指導はあっても、「仕事」に関する進路指導をする余裕はないのが現状でしょう。有為な人材を社会に輩出すべき最高学府こそが、生き方を見据えた進路指導を担うのに適した教育機関かもしれません。そのためにも、進路について考える機会を、学生生活の節目節目で提供することができればと考えています。

とは言うものの、大学院重視研究業績重視の風潮の中、就職委員会まで新たな学生サービスの仕事を増やすのは、次期委員長という立場とはいえ先生方にまことに申し訳ないのですが…。

(さとう ゆうこう／青年心理学)